

## 民間軍事会社ワグネルのアフリカ進出： マリ共和国の事例

中川 恵

武蔵野大学国際総合研究所客員教授  
羽衣国際大学 学長



東京大学学術博士。ムハンマド五世大学（ラバト）客員研究員、日本学術振興会特別研究員、在チュニジア日本国大使館専門調査員、明治大学国際総合研究所客員教授等を経て、現職。専門は中東北アフリカ地域研究。特に北アフリカの政治史・現代政治を専門とする。2011年11月、2016年10月のモロッコ王国議会選挙では、国際選挙監視員を務める。

ロシアのウクライナ侵攻が開始してから1年4カ月が経過したが、停戦の兆しはまだ見えない。侵攻前、ロシアのプーチン大統領は、ウクライナのゼレンスキー大統領は国外へ逃亡し、首都キーウを3日で陥落させることができると考えていたと伝えられる。しかしゼレンスキー大統領もウクライナ国民も決然とロシアの暴挙に抵抗する意思を見せ、当初武器供与にあまり積極的ではなかった欧米諸国もウクライナ支援を加速させた。

2014年のクリミア侵攻時のように、住民の大半に歓迎されると考えていたロシア兵たちは、ウクライナ国民による「想定外」の抵抗に直面して、士気を低下させたいうえ、補給も十分ではない状況におかれ苦戦を強いられている。2023年6月現在、ロシア軍が2022年2月以降新たに制圧できた州はない。

士気の下がったロシア軍とは対照的に、プーチン大統領の側近プリゴジン氏率いる民間軍事会社ワグネルは、次第にその存在感を高め、ショイグ国防相やゲラシモフ参謀総長らに対し、不十分な補給についてSNS上で激しく批判する姿を公開した。またワグネルの戦闘員をロシア国防軍の傘下に入れるようにとの国防省の要請をはねつ

け、両者の対立が伝えられた。そして6月24日、突如プリゴジン氏はロシア南部ロストフナドヌーで、ロシア軍南部軍管区司令部や飛行場を含む軍施設を掌握したと発表し、プーチン大統領が急遽国民に向けて演説し、プリゴジン氏を「裏切り者」として激しく非難し、「武力蜂起」の鎮圧と、さらに第一次世界大戦中に発生したロシア革命と続く内戦によってロシア人同士が

殺しあった事態の再来は避けるべきことなどを述べた。

しかしワグネルの部隊はロストフナドヌーから首都モスクワに続く連邦道路 M4 を北上し、モスクワまで 200 キロほどの地点まで進出したところで、突然プリゴジン氏は「流血の事態を避けるために」退却命令を出し、ロシア大統領府のペスコフ報道官は、プリゴジン氏に対する容疑をすべて取り下げると発表した。また同報道官は、プーチン大統領の了解のもとで、隣国ベラルーシのルカシェンコ大統領が仲介し、プリゴジン氏はベラルーシに出国することとなったと述べた<sup>1</sup>

ワグネルの設立は 2013 年頃で、2014 年から 2015 年にウクライナ東部のドンバス地方で、ドネツクとルガンスクの両・自称「人民共和国」の分離主義勢力を支援したことで、世界の注目を集めた。その後、シリア内戦においてアサド政権を支援するために、ロシアの正規軍より前に投入され、リビアの内戦においても、トブルクに拠点を置くハフタル将軍率いるリビア国民軍側で参加している。ロシアの正規軍ではないワグネルは、プーチン政権にとっては、公式な関与を否定できるため都合の良い存在であった。リビアへのロシアの関与を問われたプーチン大統領は、ロシアの「民間人」がそこにいるかもしれないが、ロシア軍の関与はないと繰り返し述べたが、プーチン政権とワグネルとの関りは明らかであった<sup>2</sup>。

このリビアに加え、マリ、スーダン、中央アフリカ、モザンビーク、マダガスカルなどアフリカ諸国で、ワグネルは関与を深めている。内戦中あるいは内戦終了直後に、権威主義政権の要人を警護する業務を請け負い、金やダイヤモンドなどの採掘権をその「代金」として受け取る場合もあり、ワグネルの大きな資金源となっている。

### マリ内戦の経緯

アフリカ北西部に位置するマリは、1960 年にフランスの植民地から独立した国である。国名はかつて繁栄したマリ帝国に由来する。2021 年の人口は約 2190 万人<sup>3</sup>、国土面積は日本の約 3.3 倍である。

独立後まもない時期から軍事独裁体制が続いた後、1991 年のクーデターで実権を握った軍人トゥーレ氏による暫定政権のもとで翌 1992 年に憲法が制定された。大統領選挙によってコナレ氏が政権につき、マリ史上初めての民主的な政権交代が実現した。

コナレ氏はポーランドのワルシャワ大学で歴史学と考古学の学位を取得し、高校教師からキ

---

<sup>1</sup> Reuters “Rebel Russian mercenaries halt advance on Moscow, Kremlin says fighters to face no action” June 24<sup>th</sup>, 2023 (<https://www.reuters.com/world/europe/rebel-russian-mercenaries-halt-advance-moscow-kremlin-says-fighters-face-no-2023-06-24/> 最終確認日：2023 年 6 月 25 日)

<sup>2</sup> 中川恵「部族アイデンティティの活性化と諸外国の介入：リビア内戦長期化の要因に関する一考察」羽衣国際大学現代社会学会『羽衣国際大学現代社会学部研究紀要』第 10 号、13-29 頁、2021 年。

<sup>3</sup> World Bank Data(<https://data.worldbank.org/country/ML>)

キャリアをスタートさせ、マリで初めての独立系新聞レ・ゼコーを創設し、1989年から3年間国際博物館評議会の会長も務めた文化人であった。彼は2期10年の任期満了で退任するまで、言論の自由や複数政党制を推進し、民主的な政権運営を行った。任期中の1996年には、マリ北部から隣国ニジェールにまたがる地域で分離闘争を繰り返していたトゥアレグ族の武装解除をおこなっている。次のトゥアレ政権においても、民主的運営は引き継がれた。

しかし2003年夏における多量の降雨によって、サバクトビバッタが異常繁殖し、2004年6月から7月にかけてモーリタニア、マリ、チャドなどのサヘル地域に移動したため、農作物に深刻な被害が発生し<sup>4</sup>、マリの経済は大きな打撃を受けた。2006年に北部地域でトゥアレグ抵抗運動が再び武装闘争を開始する事態となった。

その後2011年にリビアで発生した内戦への参加やリビアからの武器の流入によって、戦闘能力を強化したトゥアレグ族の反政府武装組織であるアザワド解放民族運動（MNLA: Mouvement national de libération de l'Azawad）は、イスラーム過激組織のアンサール・ディーンとともに北部のトンブクトゥ州、キダル州、ガオ州、モプティ州の一部を制圧し、一方的に独立宣言を行った。一方のマリ国軍は、政府に対して十分な武器を準備できなかったことなどに対して批判を強め、軍事クーデターが発生してトゥアレ政権は2012年3月に打倒されてしまった。

その後6月には、アンサール・ディーン、西アフリカ統一聖戦運動（MOJWA: Movement for Oneness and Jihad in West Africa）、イスラーム・マグリブのアル・カーイダ（AQIM: Al-Qaeda in the Islamic Maghreb）と、MNLAとの間で対立が生じ、MNLAが駆逐されたため、マリ北部はイスラーム過激派が支配する地域となった。この事態を重く見た欧米諸国やアルジェリアを初めとするアフリカ諸国は、間接的にマリ軍を支援してきたが、マリ大統領の要請によって、2013年1月旧宗主国のフランスが軍事介入としてセルヴァル作戦を実施し、アザワド地域を攻撃した。この攻撃への報復として過激派が起こした事件が、同年1月16日のアルジェリアのイナメナスの天然ガス関連施設における人質事件であった。同事件では、邦人7名を含む37名の命が失われた。

### マリへのワグネルの進出

マリ政府は2013年8月に大統領選挙を実施し、イブラヒーム・アブーバクル・ケイタ氏が大統領に就任した。ケイタ大統領は、かつて首相と国会議長を務めた人物で、2002年にも大統領選挙に立候補したが、3位で落選していた。

---

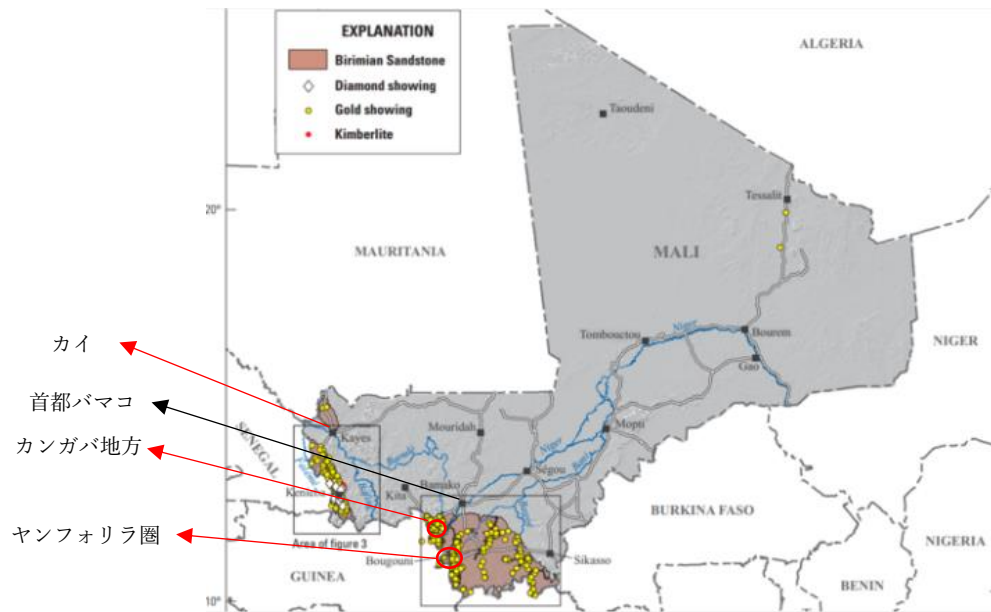
<sup>4</sup> この危機に際して、日本政府も国際連合食糧農業機関（FAO）を通じ、チャド、マリ、モーリタニアにおける砂漠バッタ対策に対し、3億3,000万円の食糧増産援助を実施した。

([https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/data/zyoukyou/h\\_16/040914\\_2.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/data/zyoukyou/h_16/040914_2.html) 最終確認日 2023年6月24日)

2002年の大統領選挙では、多くのムスリム指導者らから支援を受けていたが、首相在任中にイスラームでは禁じられているカジノや宝くじを導入したことなどから、彼に批判的な声も多かった<sup>5</sup>。2018年に大統領に再選されたが、2020年8月の軍事クーデターで辞任し、議会の解散を表明することとなった。

代わって権力を掌握したアシーミー・ゴイタ大佐は、暫定政府の副大統領に就任し、暫定大統領にはヌダウ元国防大臣を指名し就任させたが、内閣改造の際に自身への相談がなかったことを不満とし、自らが大統領に就任した<sup>6</sup>。このゴイタ暫定政府が、イスラーム系武装組織に対抗するためにワグネルをマリのみに引き入れたのであった。

マリは世界で第17位、アフリカでは南アフリカ、ガーナ、ブルキナファソに次ぐ第4位の金産出国で年間産出量は約50トン（2022年）で<sup>7</sup>、綿花に次ぐ輸出品である。マリの金鉱床は同国西部及び南部の泥・砂質岩を主体とするビリミアン系地質分布地域に集中している<sup>8</sup>。



マリにおける金の産地（黄色の丸印）<sup>9</sup>

<sup>5</sup> BBC “Mali’s Muslim leaders back ex-premier” April 26th, 2002 (<http://news.bbc.co.uk/2/hi/africa/1953128.stm> 最終確認日：2023年6月24日)

<sup>6</sup> BBC “Mali’s coup leader Assimi Goïta declares himself president” May 27th, 2021 (<https://www.bbc.com/news/world-africa-57270050> 最終確認日：2023年6月24日)

<sup>7</sup> U.S. Department of the Interior, United States Geological Survey, *Mineral Commodity Summaries 2023*, pp.80-81.

<sup>8</sup> 独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構「金属資源情報」2004年3月30日付報告書 (<https://mric.jogmec.go.jp/reports/current/20040330/557/> 最終確認日 2023年6月24日)

<sup>9</sup> U.S. Department of the Interior, United States Geological Survey, *Alluvial Diamond Resource Potential and Production Capacity Assessment of Mali*, p.6. (<https://pubs.usgs.gov/sir/2010/5044/pdf/sir2010-5044.pdf> 最終確認日：2023年6月25日)

2022年以降、ワグネルは首都バマコの南に位置するカンガバ地方やヤンフォリラ圏（シカソ州）で活動をしているとみられる。地元の住民たちは「フランス語を話さない人々」がやってきたと話す。また同年5月中旬には、イスラーム武装勢力と闘うべくマリにやってきたワグネルにとって主たる活動地はマリ北部であるはずだが、金の産出地帯に近いケーズの空港で戦闘員10名以上が目撃されている。マリの金はドバイに持ち込まれて現金化されるか、そのままロシアに送られているとみられている<sup>10</sup>。

地下資源が豊富なアフリカ大陸において、ワグネルは2017年以降中央アフリカ共和国のンダッシマ金鉱などを掌握しているほか、中央アフリカの木材がカメルーン経由で積み出され、コーヒーや砂糖からも利益をあげようとしているとされる<sup>11</sup>。しかし、マリのゴイタ暫定政権は、国中いたるところにワグネルが存在する中央アフリカのような状況になることは避け、ワグネルには要請した本来の業務であるイスラーム過激派との闘いに専念してもらいたい、そして国家としての主権は維持したいと考えている<sup>12</sup>。

### 豊富な金とティンブクトゥの古文書に見る寛容の精神

国名の由来となったマリ帝国は、13世紀に栄えた帝国である。ニジェール川上流から中流域に勢力を拡大し、ジェンネやトンブクトゥなどの交易都市が栄えた。マリ帝国以前に現在のマリとモーリタニアにかけた地域に栄えたガーナ王国は、8世紀から11世紀にかけて、サハラ砂漠の岩塩とセネガル川流域で採掘される金を交換する、いわゆる塩金交易で富を築いた。マリ帝国も同様であった。マリ帝国とその後のソンガイ帝国の時代にトンブクトゥを訪れたレオ・アフリカヌスやイブン・バトゥータはいずれも、学問が隆盛を極めるこの街の様子を記録している。

マリ帝国の最盛期はマンサ・ムーサ（在位：1312～1337年）の時代であった。マンサ・ムーサは約40兆円という人類史上最高の個人資産を保有した人物とされる。イブン・ファドララー・アルウマリーは、マンサ・ムーサが伝説的な1324年メッカ巡礼の途中で立ち寄ってから12年後にマムルーク朝下のカイロを滞在したときのことを、マンサ・ムーサが大量の金をばらまいたために、金相場が下がり、その影響は12年後の今でも続いていると記している。マリ

日)

<sup>10</sup> Benjamin Roger, « Au Mali, la ruée vers l'or des mercenaires de Wagner, » *Jeune Afrique*, le 20 juin 2023 (<https://www.jeuneafrique.com/1451811/politique/au-mali-la-ruée-vers-lor-des-mercenaires-de-wagner/> 最終確認日：2023年6月25日)

<sup>11</sup> Mathieu Olivier, « Comment Wagner se finance : enquête sur l'eldorado d'Evgueni Prigojine en Centrafrique et au Cameroun, » *Jeune Afrique*, le 12 janvier 2023. (<https://www.jeuneafrique.com/1406255/politique/comment-wagner-se-finance-enquete-sur-leldorado-devgueni-prigojine-en-centrafrique-et-au-cameroun/> 最終確認日：2023年6月25日)

<sup>12</sup> Benjamin Roger, *op.cit.*

は、欧州においても、豊かな金を産出する場所として知られるところとなり、1375年に製作された世界地図であるカタロニア地図には金塊を手にしたマンサ・ムーサの肖像が描かれている。

現在のマリにおいて、マンサ・ムーサに対しては、伝統に反して国の富を浪費しすぎた人物と評されることもあるが、共和国独立50周年にはマンサ・ムーサを記念した金貨が発行されマリ共和国の象徴の一つとみなされている。

また、マンサ・ムーサの治世下で建設され、ユネスコの世界遺産にも含まれるトンブクトウのジンガレベル・モスクにある複数の聖者廟を「偶像崇拜」であるとして、2012年にイスラーム過激派のアンサール・ディーンが破壊し<sup>13</sup>、その後トンブクトウに伝わる貴重な古文書類も焼いたことがニュースとなった<sup>14</sup>。

しかし焼失した古文書はごく一部で、イスラームの彩色写本を含む約38万点にのぼるトンブクトウに伝わる貴重な古文書の大半は、イスラーム過激派が街に侵入し始めた頃から、1984年から散逸した古文書を集め古文書館を設立した図書館員ハイダラと住民たちによって、密かに少しずつ1000キロ近く離れた首都バマコに運ばれていたことがのちに判明した。

古文書は、学術書にとどまらず、音楽や恋愛への賛歌、そして異教徒への寛容さが記されたもので、「500年におよび人間的な喜びにあふれ」ており、イスラーム過激派の思想とは相容れない。イスラーム過激派が町を制圧し、古文書に焼損の危機が迫りつつあるなかで密かに実行されたこのハイダラらによる息詰まる「古文書移送作戦」は、アメリカ人ジャーナリストのジョシュア・ハマーが2016年に発表した *The Bad-Ass Librarians of Timbuktu* (邦訳『アルカイダから古文書を守った図書館員』紀伊国屋書店、2017年) に詳しい。

## むすびにかえて

今月6月18日に実施されたマリの新憲法制定についての国民投票は、23日時点で暫定的に公表された結果では投票率39.40%と低調だったが、97%が賛成票を投じた<sup>15</sup>。イスラーム過激主義勢力と闘うゴイタ暫定政権が提示した大統領権限の強化と世俗主義原則の盛り込まれた今回の憲法改正案に対しては、イマームら宗教関係者に反対の声が強い。過激主義勢力に代表される「不寛容なイスラーム」と闘うための政教分離、世俗主義原則と、トンブクトウの古文書類に見られるマリの伝統的な「寛容なイスラーム」との間に生じた軋轢である。

---

<sup>13</sup> BBC “Timbuktu shrines damaged by Mali Ansar Dine Islamists,” June 30<sup>th</sup>, 2012. (<https://www.bbc.com/news/world-africa-18657463> 最終確認日：2023年6月24日)

<sup>14</sup> BBC “Mali conflict: Timbuktu manuscripts destroyed” (<https://www.bbc.com/news/world-africa-21257200> 最終確認日：2023年6月25日)

<sup>15</sup> *Jeune Afrique* « Au Mali, la nouvelle Constitution adoptée avec 97% des voix » le 23 juin 2013 (<https://www.jeuneafrique.com/1457074/politique/au-mali-la-nouvelle-constitution-adoptee-avec-97-des-voix-selon-des-resultats-provisaires/> 最終確認日：2023年6月24日)

今回の反乱によって、プリゴジン氏はベラルーシに出国し、ワグネルの戦闘員らはロシア正規軍に吸収され、ワグネルは解体されるとの報道がなされているが、アフリカでワグネルが手にした利権を簡単に手放すとは思えない。

長い歴史と豊かな文化遺産を有し、かつてはアフリカで最も民主的な国であるとも評されたマリの人々が、新憲法をめぐる不協和音を民主的に解決し、北部における紛争を収束させ、再び自らの資源を管理してその豊かさを享受できる状況となることを願ってやまない。